

ふるさとの
元気企業

(株)鴨
日本企業研究で培つた経験基礎に
技術協力支援事業を立ち上げる



クリストファー・
キーナ社長

鴨は、欧米で自社製品の販売を考えている企業の支援、反対に欧米の技術を求めている企業の支援、ひとことで言うとハイテク技術協力の分野で欧米とする仲立ちを、主な業務としている。所在地は「上山田町温泉」。そう、居を構えているのは信州有数の温泉地、戸倉上山田温泉なのである。

キーナ社長は「学生時代に日本に興味を持ち、大学院の時は半分を日本で過ごしながら、企業研究などを行つていました。その時に清成忠男先生（法政大 学総長）からナガノに

大きな目的でいました

するこ

とが目

的では

すから」



温泉場に「ハイテク企業」

坂城という面白い工業の町があるから見てきて「ちゃんと紹介されたのがそもそものきっかけなのです」と流暢な日本語で話す。

坂城の「面白さ」に惚れ込んだキーナさんは、結局そこに住み込んで「ある地方都市の奇跡——高度成長期の工業発展」なる博士論文までしたためてしまう。そして研究者になる道を捨て、隣町の温泉場に自ら「実践の場」を設けたというわけだ。91年のことである。

■ 小さいことはいいことだ

「生まれ育ったのはコネチカット州の田舎町。やっぱり、こういう静かなところが性にあつていています。東京で同じことをやればもつと仕事は増えると思うのですが、

キーナ社長は「学生時代に日本に興味を持ち、大学院の時は半分を日本で過ごしながら、企業研究などを行つていました。その時に清成忠男先生（法政大 学総長）からナガノに

大きな目的でいました

するこ

とが目

的では

すから」

で、パブル期以前から日本企業を研究対象として見てきたキーナさんに、今の状況はどう映るのか。

「米国はベンチャーの天国のように言われますが、『何が何でも大きくなろう』といふ経営でなければダメ。だから、どんどんマネーマークム的になっていく。日本では優れた技術力を武器に、小さい企業は小さいながら輝きを持っていたのですが、近年、若者の技術離れなど、ちょっと心配な事態が進行しています。日本の素晴らしさを失うようなことにならなければいいのですが」。

「ニックネームがダックだったものですから。日本語にある種のニュアンスがあるそれにしても、鴨とは? それにして、鴨とは? 嘛みしめたい指摘である。

「モノづくり豊岡の地域力、風間力に特大アプローチ!!」

資本金	1000万円
従業員	2人
年商	3000万円
本社	長野県更級郡上山田町
TEL	026-275-3850

ページ39、月刊「コロンブス」
第5号、2002年3月
株式会社 東方通信社(東京)

Page 39, Columbus Magazine (monthly)
No. 5, March 2002
Toho Press, Tokyo Japan
www.tohopress.com

